

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名:大阪府教育委員会

1. 事業の概要

事業名称	地域で活動する識字・日本語教室の支援力強化事業
事業の目的	・府内の識字・日本語教室相互の連携体制を構築する。 ・学習支援者が、学習者の多様なニーズに応えられるスキルを高め、教室の支援力を強化する。 (大阪府では、識字運動の中で作られ、活動を続けてきた識字学級にも外国人学習者を受け入れ、ともに学ぶ活動が行われており、日本語教室とともに識字・日本語教室として、学習活動推進のための取組みを進めている。)
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	府内の在留外国人数は増加傾向にあり、とりわけ永住者数は平成22年～平成27年で23%増加している。また国家戦略特区指定(外国人による家事代行)により、外国人住民は今後も増加が見込まれ、在留外国人をめぐる社会的孤立、貧困、婚姻関係、子どもの教育等の課題がさらに多様化、複雑化することが予想され、地域の日本語教室が果たす役割も高まり、一層の教室の学習者への対応力強化が望まれる。
本事業の対象とする空白地域の状況	府内自治体のうち、日本語教室がない自治体は5町村であり、現在のところ新たに開設する計画はないが、市町村域を越えた協働体制を充実させることによって、当該自治体の外国人住民等の学習機会を保障できるよう、取組みを進めた。
事業内容の概要	地域の日本語教室の学習者への対応力強化のために以下の取組みを行った。 ・府内を5つのエリアに分け、システムコーディネーターを各1人配置し、教室どうしの連携強化及び各教室の運営支援や相談への対応を行い、識字・日本語教室相互の協働体制を構築し、各教室の運営力を高める。 ・初めて日本語を学ぶ外国人への学習支援のための基礎的なスキルを学ぶ「日本語初心学習者支援講習会(ゼロ初級学習者への学習支援講習会)」、外国人学習者の生活に関わる課題解決のために、様々な人や環境に働きかける基礎的なスキルを学ぶ「社会とつなぐ日本語教室運営講座(多文化ソーシャルワーク講座)」を開講し、学習支援者の学習者への対応力を高める。 ・「外国人学習支援者養成研修」を実施して、外国人学習者に対し、教室活動への主体的参加を促し、多様化・複雑化する学習者の課題への教室の対応力をいっそう強化する。
事業の実施期間	平成29年5月15日～平成30年3月20日 (10か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	上杉 孝實	京都大学
2	森 実	大阪教育大学
3	有田 典代	NPO法人関西国際交流団体協議会
4	石橋 由紀子	NPO法人市民活動フォーラムみのお
5	久 和人	大阪府教育庁
6	榊井 則子	大阪府教育庁



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年7月26日 (水)15時45分～17時15分	1.5時間	大阪府庁	上杉 孝實、森 実、有田 典代、石橋 由紀子、久 和人、榊井 則子	文化庁委託事業の進捗状況の報告及び取組みへの助言
2	平成30年2月28日 (水)11時00分～12時30分	1.5時間	大阪府庁	上杉 孝實、有田 典代、石橋 由紀子、久 和人、榊井 則子	文化庁委託事業の評価及び次年度に向けて課題整理

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	・おおさか識字・日本語センターへ事業の進捗状況を報告した。 ・(公財)箕面市国際交流協会<豊能エリア>、(特活)とんだばやし国際交流協会<中・南河内エリア>、かいづか国際交流協会<泉州エリア>、多文化共生社会を考える会<三島エリアと北河内エリア>以上の4団体に各エリアにおける協働体制の構築のための取組みを再委託し、地域の課題を府と協議し、識字・日本語学習活動をさらに展開できるよう協働した。成果物として『識字・日本語教室取組事例集』を作成した。 ・海外協力グループ“クスクス”に日本語教育活動を再委託し、教室の取組みについて、識字・日本語学習シンポジウムで発表するとともに、市町村識字・日本語担当者連絡会議でも報告した。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	中核メンバーおよび大阪府教育庁担当課職員が、年5回システム・コーディネーター連絡会議を開催し、事業の進捗状況について情報を共有し、状況に合わせて適切な対応を議論して、事業の目的達成をめざした。 第1回平成29年8月8日(火)教室再訪のポイント、再委託の内容の検討、第2回平成29年9月29日(金)教室の実態調査の検討、第3回平成29年11月2日(木)シンポジウムの内容の検討、第4回平成29年12月21日(木)取組み事例集の検討、第5回平成30年1月6日(火)エリア・ブロックの次年度取組みの検討を行った。 府内を5つのエリアにわけ、各エリアに昨年度と同じシステムコーディネーターを配置し、エリア内の教室の困りごと相談などの支援活動が継続できるようにするとともに、上記の会議で府内5エリアの支援活動の共有を図り、府全域の識字・日本語教室に還元できる事例集を作成した。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組1	取組の名称		エリアにおける協働体制の構築のための取組み							
	取組の目標		エリア内の識字・日本語教室相互の連携体制を構築する。							
	取組の内容		府内を5つのエリアに分け、各エリアにシステムコーディネーターを1人配置し、以下のことを行った。 ①エリア内の教室を訪問し、各教室の活動状況を把握し、教室間の協働関係づくりを進める。 ②教室からの教室運営等に関する相談に応じ、助言する。 ③エリア内の教室が参加する「教室ネットワーク会議」を開催する。 ④教室の活動を地域に発信する。 ⑤システムコーディネーター連絡会議を開催する。(5人のシステムコーディネーター、本事業中核メンバー、本事業担当課職員で月1回、連絡会議を開き、情報共有及び課題の整理、課題解決のための協議などを行う。)							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		府内44教室の訪問やエリアネットワーク会議を開催することで、府内5つのエリアにおける各教室どうし、教室と行政その他の組織との連携が進んだ。また、システムコーディネーター連絡会議や識字・日本語学習シンポジウムなどで、5つのエリア間の情報共有も行い、府全体としての連携と学習支援体制の整備が促進された。 また、これまで府事業として行ってきた、ブロック別交流会や教室見学などの取組みにも、各エリアのシステムコーディネーターが参画して、情報提供や助言を行うことにより、連携体制の密度を高めることができた。							
	取組による日本語能力の向上		システムコーディネーターが市町村行政職員や教室支援者と教室訪問で得た教室情報を共有することにより、支援を必要とする人の学習機会が広がるとともに、より質の高い支援を受けることがつながった。							
	参加対象者		システムコーディネーター、識字・日本語教室学習支援者、学習者				参加者数 (内 外国人数)		114人 (人)	
	広報及び募集方法		(システムコーディネーターについては、各エリア内で活動する組織に再委託する。)							
	開催時間数		総時間 502 時間(空白地域 時間)			①教室訪問86時間 ②コーディネート業務 244時間 ③エリアネットワーク会議 11時間 ④システムコーディネーター連絡会議48時間⑤作業補助等業務113時間				
	主な連携・協働先		市町村行政担当課、各地域の国際交流協会、(公財)箕面市国際交流協会、(特活)とんだばやし国際交流協会、かいづか国際交流協会、多文化共生社会を考える会、地域の識字・日本語教室							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国		ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	教室・行政担当者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
1	平成29年10月31日 (火) 16:00～17:00	1	豊中市役所	8	エリアネットワーク会議(豊能)	市町村国際セクション、教委、国際交流協会や教室コーディネーターに集まってもらい、各教室の課題共有と情報交換を図る。	豊能システムコーディネーター 河合大輔			
2	平成29年2月18日 (日) 12:00～13:30	1.5	豊中市立中央公民館	10	エリアネットワーク会議(豊能)	市町村国際セクション、教委、国際交流協会や教室コーディネーターに集まってもらい、各教室の課題共有と情報交換を図る。	豊能システムコーディネーター 河合大輔			
3	平成30年11月1日 (水) 14:00～16:00	2	摂津市市役所	15	エリアネットワーク会議(三島)	市町村国際セクション、教委、国際交流協会や教室コーディネーターに集まってもらい、各教室の課題共有と情報交換を図る。	三島システムコーディネーター 島貫 清司			
4	平成30年2月24日 (土) 13:00～14:00	1	摂津市立コミュニティプラザ	14	エリアネットワーク会議(三島)	市町村国際セクション、教委、国際交流協会や教室コーディネーターに集まってもらい、各教室の課題共有と情報交換を図る。	三島システムコーディネーター 島貫 清司			
5	平成30年3月7日 (水) 14:00～16:00	2	門真市立公民館	16	エリアネットワーク会議(北河内)	市町村国際セクション、教委、国際交流協会や教室コーディネーターに集まってもらい、各教室の課題共有と情報交換を図る。	北河内システムコーディネーター松藤 昌代			
6	平成30年1月27日 (土)16:00～17:00	1	松原図書館	7	エリアネットワーク会議(中・南河内)	市町村国際セクション、教委、国際交流協会や教室コーディネーターに集まってもらい、各教室の課題共有と情報交換を図る。	中・南河内システムコーディネーター内海京子			
7	平成30年2月20日 (火) 15:30～17:00	1.5	阪南市サラダホール	15	エリアネットワーク会議(泉州)	市町村国際セクション、教委、国際交流協会や教室コーディネーターに集まってもらい、各教室の課題共有と情報交換を図る。	泉州システムコーディネーター岩田 光弘			

8	平成29年8月8日 (火) 13:00～14:00 17:00～18:00	2	大阪府教育 庁	6	システムコーディネーター連絡会議	教室再訪のポイント、再委託の内容 の検討	(参加者)河合大輔、島貫 清 司、松藤 昌代、内海京子、岩 田 光弘
9	平成29年9月29日 (金)10:00～12:00	2	大阪府教育 庁	5	システムコーディネーター連絡会議	教室の実態調査の検討	(参加者)島貫 清司、松藤 昌 代、内海京子、岩田 光弘
10	平成29年11月2日 (木)10:00～12:00	2	大阪府教育 庁	6	システムコーディネーター連絡会議	シンポジウムの内容の検討	(参加者)河合大輔、島貫 清 司、松藤 昌代、内海京子、岩 田 光弘
11	平成29年12月21日 (木)10:00～12:00	2	大阪府教育 庁	6	システムコーディネーター連絡会議	取組み事例集の検討	(参加者)河合大輔、島貫 清 司、松藤 昌代、内海京子、岩 田 光弘
12	平成30年1月16日 (火) 14:00～16:00	2	大阪府教育 庁	6	システムコーディネーター連絡会議	エリア・ブロックの来年度取組みの検 討	(参加者)河合大輔、島貫 清 司、松藤 昌代、内海京子、岩 田 光弘

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【平成30年2月20日(火) 泉州エリアネットワーク会議】

泉州エリアでは、エリア内の識字・日本語教室におけるさまざまな課題について意見交換するエリアネットワーク会議を行政関係者、教室支援者など、15名の参加を得て開催した。今回の会議では、各市町村や各教室の課題等について意見交換することによって、各教室の取組みについての理解が深まるとともにエリア内での取組みを企画するなど連携が進んだ。また意見交換の中で泉州エリアでは、在留外国人が散在しているため、各教室に散在している同一母語の学習者が、母語で交流する場作りが課題であり、取組みが必要との提案がされた。



○取組事例②

【平成30年2月24日(土) 三島エリアネットワーク会議】

三島エリアネットワーク会議では、エリア内の識字・日本語教室におけるさまざまな課題について意見交換するエリアネットワーク会議を行政関係者、教室支援者など14名の参加を得て開催した。会議は、2回目となる開催で、システム・コーディネーターが教室訪問の報告を行うとともに、参加者(行政担当者と教室の支援者)がグループに分かれて、識字学級・日本語教室各々の課題や取組みについての交流を行った。行政担当者や教室支援者の連携が進み、エリア内での教室支援力強化の取組みについて提案がされた。



(2) 目標の達成状況・成果

・府内44教室の訪問やエリアネットワーク会議を開催することで、府内5つのエリアにおける各教室どうし、教室と行政その他の組織との連携が進んだ。また、6回実施したシステムコーディネーター会議で、5つのエリア間の情報共有も行き、府全体としての連携と学習支援体制の整備が促進された。

・事業2年目となる今年度は、事業を実施する中で得た事例等を紹介するために事例集を作成した。事例集は、システムコーディネーターがおこなった教室訪問やエリアネットワーク会議の開催で得た課題解決に向けた取組みを課題別に掲載し、識字・日本語教室に関わっている者が課題を解決するために参考となる資料となった。

(3) 今後の改善点について

・教室訪問や府の調査において、教室での使用教材を調べたところ、「みんなのにほんご」は104教室、「教室自作の教材」が44教室、文化庁『『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集』(以下「標準的なカリキュラム案」という)は、4教室であった。教室から有効な教材の情報が欲しいという声もあったことから、来年度文化庁の「標準的なカリキュラム案」などの教材について教室訪問やエリアネットワーク会議の場を通じて活用方法も含め周知していく。

<取組2>

取組2	取組の名称		日本語初級学習者支援講習会(「ゼロ初級学習者」への学習支援講習会)の開催									
	取組の目標		初めて日本語を学ぶ学習者への学習支援方法の基礎を身につける。									
	取組の内容		日本語教育の専門家を講師として、初心学習者が陥りやすい不安の解消法や、「やさしい日本語」の考え方、実物を使った日本語指導実践など、識字・日本語教室の学習支援を対象とした講座を実施した。 第1回 日本語初心学習者の不安について、日本語教室で学んだもと学習者から実践報告。 第2回 日本語初心学習者を実際に支援している講師から日本語初心学習者が直面する課題と解決策の講義 第3回 大阪府における在留外国人の現状(府教育庁)、文化庁カリキュラム案・教材例集、および教材の紹介 第4回～第6回 日本語初心学習者の具体的な指導方法について(大阪YWCA日本語教師会から講師招聘)									
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
	取組による体制整備		初めて日本語を学ぶ学習者に対応できる教室が増えた。また、エリア内の市町村行政担当者や教室と情報共有することによって、初めて日本語を学ぶ学習者に対応できない識字・日本語教室に対応可能な教室につながることで環境づくりにつながった。									
	取組による日本語能力の向上		教室の支援者では対応が困難な初心学習者を受け入れる教室が増えたことにより、日本語学習を必要とするより多くの学習者を支援できるようになった。 また、これまで、初心学習者の講座を実施していたのは、大阪市と堺市の教室のみであったが、他の教室でも受け入れを促すきっかけとなった。									
	参加対象者		識字・日本語教室の学習支援者				参加者数 (内 外国人数)		49人 (人)			
	広報及び募集方法		①開催案内らしを各教室に配付した。 ②大阪府ウェブページに紹介、また各市町村識字・日本語担当部局にメールで告知。さらに記者クラブに情報提供。									
	開催時間数		総時間 13.5 時間 (空白地域 時間)									
	主な連携・協働先		市町村行政担当課、各地域の国際交流協会、(公財)箕面市国際交流協会、(特活)とんだばやし国際交流協会、かいづか国際交流協会、多文化共生社会を考える会、地域の識字・日本語教室									
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル			
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容			指導者名			
1	平成29年8月21日 (月) 10:00-12:00	2	大阪府教育センター	43	初心学習者の思いについて知る	(講義)外国人が日本語を学ぶ上での困難について(ワーク)受講動機などのシェアリング			なんばエルネット日本語専門学校 徐 受 延			
2	平成29年8月28日 (月) 10:00-12:00	2	大阪府教育センター	42	初心学習者が直面する課題とその解決について知る	(講義)日本語初心学習者が直面する課題と解決策			おおさかこども多文化センター 副理事長 安田 乙世			
3	平成29年9月4日 (月) 10:00-12:00	2	大阪府教育センター	45	初心学習者を支援している教室の話を聞くとともに、初心者向け独自教材の作成方法を学ぶ。	(講義)大阪府における外国人居住者の現状と今後 (講義)日本語初心学習者向け教材の考え方			地域教育振興課 総括主査 妻木 靖朗 公益財団法人吹田市国際交流協会 林 詩			
4	平成29年9月11日 (月) 10:00-12:30	2.5	大阪府教育センター	48	実際に初心学習者を指導するための方法	(講義)実践手法①「はじめまして」最初の活動の進め方			大阪YWCA日本語教師会 日本語講師 伊東 和子			
5	平成29年9月25日 (月) 10:00-12:30	2.5	大阪府教育センター	47	実際に初心学習者を指導するための方法	(講義)実践手法② 対話中心の活動の進め方			大阪YWCA日本語教師会 辻村 文子			
6	平成29年10月2日 (月) 10:00-12:31	2.5	大阪府教育センター	47	実際に初心学習者を指導するための方法	(講義)実践手法③ 発音と文字の指導「みんなのにほんご」を使った活動			講師 大阪YWCA日本語教師会 日本語講師 伊東 和子			
7												
8												

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成29年8月21日(月)】

第1回は、日本語に初めて触れる外国人に、どう寄り添い、どうアドバイスをしていくか、を学ぶ講習を実施した。内容は、「外国人が日本語を学ぶ上での困難について」というテーマで、外国人が初めて日本に来て、日本語を学ぶために教室に来たときに配慮が必要なことについて具体的な事例も交えて学んだ。

日本語教室で支援ボランティアをする人は、どうしてもカリキュラムや教材に対する不安があるが、「教えてもらう」より「話し相手になってもらう」ことが日本語は上達する、ということを学習者から直接聞いたことは意義深く、第2回以降の講習の導入として最適な内容となった。



○取組事例②

【第5回 平成29年9月25日(月)】

大阪YWCA日本語教師会の講師による講義「対話中心の活動の進め方」では、日本に住む外国人が最も困ることは何か？という観点から話を進め、実物を使ったり、パネルや写真を活用する伝え方を学んだ。その後、受講者どうし、ロールプレイによって実際に「やさしいにほんご」を活用した日本語指導を体験した。

大阪府内の日本語教室でも、日本語能力検定をめざすようなカリキュラムを作成する教室が多い中、「生活者としての外国人」という観点からの内容は、当事業の目的に沿うもので参加者にとって日本語初級学習者を支援していくうえで有効だった。



(2) 目標の達成状況・成果

受講アンケートから

- ・受講した講習はあなたの期待やニーズに応じていると思いますか。(4.69/5段階)
- ・講習の内容は、理解できたと思いますか。(4.73/5段階)
- ・この講習で得たことを今後の活動に活かすことができますと思いますか。(4.69/5段階)
- ・内容は充実していましたか？(4.70/5段階)

以上の通り、非常に高い評価であった。

初めて日本語を学ぶ学習者に対応できる教室の増加につながった。また、エリア内の市町村行政担当者や教室と講習内容情報共有することによって、初めて日本語を学ぶ学習者への対応がむずかしい識字・日本語教室を対応可能な教室につながることができた。

さらに講習会に参加した受講者を登録し、識字・日本語学習関連の情報を提供することで参加者どうしのネットワークを構築することができた。

(3) 今後の改善点について

・参加者どうしの主体的なネットワークを広げるという観点から、受講動機の共有など、参加者がつながりをつくるうえで有益なワークショップを数度入れるとともに、最終日には参加者どうしのネットワークができるようにする。

・日本語初級学習者支援講習会の参加者にその後の講習、識字・日本語講習(取組3、取組4)について案内をおこない、年間を通じて12回の講習参加を促し、教室の運営力強化について理解を深めていただくよう働きかける。

<取組3>

取組3

取組の名称		社会とつなぐ日本語教室運営講座(多文化ソーシャルワーク講座)の開催						
取組の目標		学習者からの生活に関わる相談等への対応力を高める。						
取組の内容		日本語学習の支援者は日本語を教えることで、学習者と長時間寄り添うことになり、生活に関わる相談も受けることが多い。相談を受け止め、関係機関とつなぐ方法(ソーシャルワーク的手法)を学ぶための講座を実施した。 第1回 大阪府立学校在日外国人教育研究会による外国につながる子どもの相談事例について理解を深め、相談、連携する機関について知る。 第2回 (一財)ダイバーシティ研究所による大規模災害時の外国人に対する支援について学ぶ。 第3回 (公財)大阪府国際交流財団相談員による多言語相談の実例を学び、具体的な連携機関について知る。						
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
取組による体制整備		学習支援者や教室コーディネーターが外国人学習者から相談される生活に関わる課題について、行政や相談機関につなぐ手法や情報を知ることができた。そのことにより、学習支援者等が行政・相談機関とつながるきっかけとなった。						
取組による日本語能力の向上		学習支援者が学習者が抱える様々な課題について、行政や相談機関とつなぐ手法や情報を知ったことにより、学習者が安心して学習できる環境づくりにつながった。						
参加対象者		識字・日本語教室の学習支援者				参加者数 (内 外国人数)	43人 (1 人)	
広報及び募集方法		①開催案内を各教室に配付した。 ②大阪府ウェブページに掲載、また各市町村識字・日本語担当部局にメールで告知。さらに記者クラブに情報提供。						
開催時間数		総時間 6.5 時間(空白地域 時間)						
主な連携・協働先		各市町村行政担当課、各地域の国際交流協会、(公財)大阪府国際交流財団						
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
							1	

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名
1	平成29年11月6日 (月) 14:00~16:00	2	吹田市男女共同参画センターデュオ	40	外国につながるある子どもの相談事例について理解を深め、相談、連携する機関について知る。	(講義)多文化共生の識字・日本語学習ー子どもの立場からー(ワークショップ)参加者自身が直面した外国人学習者の相談事例	大阪府立学校在日外国人教育研究会 事務局長 米谷 修
2	平成29年11月13日 (月) 14:00~16:30	2.5	吹田市男女共同参画センターデュオ	43	地域に根ざした生活者としての外国人の支援について学ぶ。	(講義)共に支えあう識字・日本語教室をめざしてー災害時にはどうする?ー	一般社団法人 ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎
3	平成29年11月20日 (月) 14:00~16:00	2	吹田市男女共同参画センターデュオ	39	外国人の具体的な相談内容について知るとともに、相談連携先について認識を深める	(講義)大阪府における外国人の相談内容と対応 (ワークショップ)第1回ワークショップの相談事例を共有し、対応方法を考える。 『大阪生活必携』紹介	公益財団法人 大阪府国際交流財団 相談員 北田 加代子
4							
5							
6							
7							

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成29年11月6日(月)】

・「多文化共生の識字・日本語学習 ―子どもの立場から―」と題して、大阪府立学校在日外国人教育研究会 事務局長より、外国につながるのある子どもへの府立学校における支援について紹介する講座を実施した。識字・日本語教室では、学習者から子どものことを相談されることがあるため、今後の活動に活かせる内容となった。

・ワークショップでは、第3回で相談事例への対応の方法、公的機関に引き継ぐ方法などのスキルを学ぶための事前学習として、受講者自身が直面した外国人学習者の相談事例を出し合い、意見交換した。



○取組事例②

【第3回 平成29年11月6日(月)】

・「大阪府における外国人の相談内容と対応」と題して、公益財団法人大阪府国際交流財団相談員を講師に迎え、外国につながるのある人の具体的な相談事例を紹介する講座を実施した。

・ワークショップでは、第1回ワークショップの相談事例を共有し、対応方法を参加者全員で考えた。資料として、配付した大阪府国際交流財団作成の『大阪生活必携』を使って、生活上の「困りごと」の相談を受け止め、公的機関に引き継ぐ方法などを学ぶことができ、有効であった。



(2) 目標の達成状況・成果

受講アンケートから

- ・受講した講習はあなたの期待やニーズに役立っていると思いますか。(4.48/5段階)
- ・講習の内容は、理解できたと思いますか。(4.46/5段階)
- ・この講習で得たことを今後の活動に活かすことができると感じますか。(4.57/5段階)
- ・内容は充実していましたか？(4.56/5段階)

以上の通り、高い評価であった。

多くの具体的な相談事例にへの対処方法等を共有することにより、学習者からの生活に関わる相談等への対応力を高めることにつながった。

(3) 今後の改善点について

・外国につながる人々の相談について、CSW(コミュニティソーシャルワーカー)が対応していることもあるため、次年度は、CSW(コミュニティソーシャルワーカー)から、学習者からの生活に関わる相談について、具体的な対処方法の例を提示をもらう講座を実施し、教室の支援力強化につなげる。

<取組4>

取組4

取組の名称		外国人学習者のための支援者養成講座							
取組の目標		識字・日本語教室で学んだ外国人学習者が、自身の経験や母語を活かし、学習支援者として活動していけるようにする。							
取組の内容		識字・日本語教室で学んだ外国につながるのある学習者が、経験や母語を活かした学習支援者として活動することを期して、「学習者が支援者となっていくための教室運営の考え方」を学ぶ研修を教室運営者や支援者を対象に実施。教室訪問形式で行った。							
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
取組による体制整備		本講座で学んだ人が、日本で生活する外国人としての経験や知識を識字・日本語教室で発揮することで、教室の支援力をいっそう高めることができた。講座の内容等をエリア内の行政担当者やシステムコーディネーターを通じて各教室に情報共有されることにより三者の連携が進んだ。							
取組による日本語能力の向上		さまざまな言語を母語とする学習支援者が、そのポテンシャルを発揮することにより、外国人学習者が能力向上につながる支援する環境を作るきっかけとなった。							
参加対象者		識字・日本語教室で学んだ学習者のうち、今後学習支援者としての活動を行ってもよいと考えている人・教室運営者			参加者数 (内 外国人数)		28人 (3人)		
広報及び募集方法		①市町村の識字・日本語担当部局にメールによって周知するとともに、教室関係者への連絡依頼。 ②開催案内チラシを各教室に配布。							
開催時間数		総時間 6 時間(空白地域 時間)							
主な連携・協働先		各国際交流協会等、各識字・日本語教室							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		2			1				
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容			指導者名
1	平成29年12月2日 (土)18:00～20:00	2	高砂日本語教室(八尾市)	6	わたしが支援者になって学んだこと	教室見学と教室の支援者の話を聞き「学習者が支援者となっていくための教室運営の考え方」を学ぶ。			運営委員 平野 和美、 支援者 岡田 慧、王 莉 莉
2	平成29年12月6日 (水)18:30～20:30	2	よみかき茶屋(大阪市)	9	教室での『学び』はだれのため、なんのため	教室見学と教室の支援者の話を聞き「学習者が支援者となっていくための教室運営の考え方」を学ぶ。			コーディネーター 柴田 亨、 支援者 元 淑 喜
3	平成29年12月14日 (木)14:30～16:30	2	とよなかにほんご・木ひる(豊中市)	13	学びあうために大切なこと	教室見学と教室の支援者の話を聞き「学習者が支援者となっていくための教室運営の考え方」を学ぶ。			支援者 一橋 みな子、小玉 きよみ、 小川 洋子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成29年12月2日(土)】

・高砂日本語教室(八尾市)を訪ねて、教室を見学し、教室の支援者の話を聞いた後にワークショップをおこなった。高砂日本語教室では、中国帰国者だけでなく、中国出身の方も含めて、暮らしに直結した日本語を学べる場となっており、毎週土曜日の夜、30人を超える人たちが集まっている。

・教室の支援者から、日本語が堪能になった学習者が、サポートする側にまわるという循環ができていて、要因等について話を聞いた後にワークショップをおこなった。教室で学んだ外国につながる学習者が、経験や母語を活かした学習支援者として活動できる教室の運営のあり方について、参加者が学ぶことができた。



○取組事例②

【第2回 平成29年12月6日(水)】

・「大阪市教育委員会社会教育施設 識字教室モデル教室 よみかき茶屋」(大阪市)を訪ねて、教室を見学し、教室の支援者の話を聞いた後にワークショップをおこなった。教室「よみかき茶屋」では「共に学ぶ場、温かい居場所、ゆめをつむぐ拠点」となることをめざしており、教室理念をもって活動し、外国人学習者を支援者に育てている。

・元学習者で、現在は学習支援をおこなっている人の話を聞くことにより、さまざまな言語を母語とする学習者が、そのポテンシャルを発揮して支援者となる環境を作るためには、教室が「学習者も支援者も共に学び合う」場にする必要があることを学ぶことができた。



(2) 目標の達成状況・成果

受講アンケートから

- ・受講した講習はあなたの期待やニーズに応じていると思いますか。(4.75/5段階)
- ・講習の内容は、理解できたと思いますか。(4.79/5段階)
- ・この講習で得たことを今後の活動に活かすことができると思いますか。(4.78/5段階)
- ・内容は充実していましたか？(4.78/5段階)

以上の通り、非常に高い評価であった。

教室訪問形式で行ったことで、教室の実際の様子が変わり、また支援者、運営者を囲んで質疑応答できたため、より実践に役立つ支援方法を学んでもらうことができた。

(3) 今後の改善点について

・内容については高い評価だったが、事業の実施が12月上旬、中旬であったため、受講者が、他の取組に比して少なかった。受講者がより多く集まるように11月に実施できるようにする。

・参加者どうしのネットワークをつくるため、受講動機や教室運営の課題の共有など、受講者がつながりをつくるうえで有益なワークショップを行うとともに、振り返りのワークを入れるなど交流する時間を設ける。

<取組5>

取組5

取組の名称		識字・日本語学習シンポジウム							
取組の目標		本事業の進捗状況を共有し、成果と課題を整理する。 シンポジウムの開催及びその成果を府民に発信し、識字・日本語学習活動の認知を深める。							
取組の内容		地域で活動する識字・日本語教室の支援力強化事業(文化庁事業)の成果と課題を整理し、共有した。 ① 今後の識字・日本語教育について、国の動向などの情報を共有する。(学習院大学 教授 金田 智子) ② 今後の識字・日本語教育について、学識より動向などの情報を共有する。(大阪産業大学 教授 新矢 麻紀子) ③ システムコーディネーターが、本事業に係る取組みを通じて把握した識字・日本語教室の現状と課題を紹介し、大阪の識字・日本語学習活動の多様性、将来性を共有する。 ④ 大阪の識字・日本語学習の意義と課題を共有し、連携を深める。							
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
取組による体制整備		日本語教育の人材養成に関わる内容の講演を聴き、さらに大阪における識字・日本語学習について、歴史的な経緯も含めた講演を聴いて、今後、支援者をどう育成するか、というパネルディスカッションをおこなった。この取組をととして、各エリアの各教室が抱える課題を共有し、今後の方策を協議することで、エリアを越えたつながりをつくるきっかけとなった。							
取組による日本語能力の向上		各エリアの教室の成果や課題について、情報共有や協議することにより、より多くの日本語習得を必要とする学習者のニーズに応えることができるきっかけとなった。							
参加対象者		識字・日本語教室関係者、行政担当者、国際交流協会担当者等				参加者数 (内 外国人数)		79人 (6人)	
広報及び募集方法									
開催時間数		総時間 2.5 時間(空白地域 時間)							
主な連携・協働先		各市町村国際交流部局、各市町村教育委員会、各地域の国際交流協会							
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
	2			3			1		

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名
1	平成30年1月26日 (金) 14:00～17:00	50分	大阪市立総合生涯学習センター	79	日本語教育の人材養成に関わる講演	日本語教育人材に求められる資質・能力とは—国内動向と海外事情を踏まえて—	学習院大学 教授 金田 智子
		50分			大阪における識字・日本語学習について、歴史的な経緯も含めた講演	大阪の識字・日本語学習の意義と課題—外国人のリテラシー獲得という観点から—	大阪産業大学 教授 新矢 麻紀子
		50分			今後、(若年の)支援者をどう育成するかについてパネルディスカッション	識字・日本語教室の支援力強化のために—生活者としての外国人をめぐって—	【パネリスト】 (教授) 金田 智子 (教授) 新矢 麻紀子 (システムコーディネーター) 河合 大輔 (システムコーディネーター) 松藤昌代 (地域教育振興課) 久 和人 【コーディネーター】 (NPO法人おおさかこども多文化センター) 安田 乙世

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

・学習院大学 金田 智子教授による「日本語教育人材に求められる資質・能力とは—国内動向と海外事情を踏まえて—」というタイトルの講演と、大阪産業大学 新矢 麻紀子教授による、「大阪の識字・日本語学習の意義と課題 —外国人のリテラシー獲得という観点から—」というタイトルの講演を実施した。2つの講演をとおして、国の動向などの情報を共有することができた。また、大阪の識字・日本語学習活動の多様性を再確認することができた。

・パネルディスカッション「識字・日本語教育の支援力強化のために」では、コーディネーターにNPO法人おおさかこども多文化センター理事を迎え、パネラーに、講演者の金田教授と新矢教授、豊能エリアシステムコーディネーター、北河内エリアシステムコーディネーター、大阪府教育庁地域教育振興課職員が登場し「今後、支援者をどう育成するか」について議論した。その中で若い支援者を迎えるために求められることとして「大学との連携を進める」「インターンシップを受け入れる」などの提案がなされ、参加者が人材育成について考えるきっかけとなった。



(2) 目標の達成状況・成果

参加者アンケートから

- ・講演は参考になりましたか。(4.56／5段階)
- ・パネルディスカッションは参考になりましたか。(4.6／5段階)
- ・今回のシンポジウムで得たことを今後の活動に活かすことができると感じますか。(4.36／5段階)
- ・本日の内容は充実していましたか？(4.53／5段階)

以上の通り、高い評価であった。

・あらかじめ用意した質問用紙を使って、会場からの声にパネルディスカッションで応答したことが、本事業の成果と課題を整理するのに効果があった。

・参加者も79名と多く、文化庁委託事業の成果を府民に発信できた。また、今年度の文化庁事業の成果と課題について共有することができた。

(3) 今後の改善点について

・講演2本とパネルディスカッションと多くの内容を盛り込んだため、各部の時間がやや足りなくなった。次年度は、パネリストの議論をより深め、参加者が課題解決の方法等を考えるきっかけとなるシンポジウムになるようプログラム構成の見直し等を検討する。

・大阪府では、識字運動の中で作られ活動を続けてきた識字学級にも外国人学習者を受け入れ、ともに学ぶ活動が行われており、日本語教室とともに識字・日本語教室として、学習活動推進のための取組みを進めている。このような歴史的経緯があるため、シンポジウム参加者アンケートの結果においても「大阪の識字・日本語学習の意義と課題」についての関心が高かったため来年度は、本事業に係る取組みを通じてシステムコーディネーターが把握した識字・日本語教室の現状や課題に基づいて議論し、さらに参加者の関心が高まるような企画を検討する。

＜取組6＞										
取組6	取組の名称		よみかきこうりゅうかい							
	取組の目標		府内の識字・日本語教室の学習者、学習支援者がお互いに情報交換や意見交流を行うことにより、日常の活動への意欲や課題を解決していくヒントを得る機会とする。							
	取組の内容		大阪府内の識字・日本語教室の学習者、学習支援者が一堂に会する交流会を開催。 外国人をはじめとした日本語学習に関わっている人が集まり、日常の活動についての成果や課題などの情報交換や意見交流を行う分科会も実施する予定であった。※悪天候により、分科会は、中止となった。(会場 大阪府教育センター全館を活用) 10:00～12:00 全体会(大ホール)各教室紹介、教室からの報告発表 13:00～15:00 分科会(分科会D以外は、中学校夜間学級の教員がコーディネート A:作文づくりのひろば B:おしゃべりのひろば C:なかまづくりのひろば D:異文化とふれあうひろば E:俳句のひろば F:世界の歌とおどりのひろば G:ものづくりのひろば H:韓国・朝鮮文化を楽しむひろば I:中国語でおしゃべりするひろば							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		午前の全体会では、教室紹介と日本語教室(取組み7を再委託している教室)の落語劇上演があり、外国人をはじめとした日本語学習に関わる人たちの教室をこえた友好、連携が促進された。午後は、台風接近の悪天候で、分科会が中止となった。							
	取組による日本語能力の向上		午前の全体会において、落語劇を上演して日本語能力の向上を図ることができた。午後の分科会では、出身地域・国の紹介を日本語で行うことで自らを紹介する日本語能力を高めていくことを期していたが、台風接近の悪天候で、分科会自体が午後から中止となった。							
	参加対象者		府内の識字・日本語教室学習者、学習支援者、市町村担当者	参加者数 (内 外国人数)		259人 (74 人)				
	広報及び募集方法		各市町村を通じ、民間運営の教室も含めた各教室に案内し、積極的な参加を呼びかける。							
	開催時間数		総時間 2 時間(空白地域 時間)							
	主な連携・協働先		識字・日本語連絡会、大阪府内中学校夜間学級、おおさか識字・日本語センター							
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
			10	12		50	1			
		フランス1人								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	参加者数	取組テーマ	内容		出演団体		
1	10月22日(日) 10:30～12:30	2	大阪府教育センター	259	よみかきこうりゅうかい ぜんたいかい	教室紹介 落語劇		落語劇(海外協力グループ“クスクス”)		
2										
3										

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

午前の全体会では、教室紹介と日本語教室(取組み7を再委託している教室)の落語劇上演があり、外国人をはじめとした日本語学習に関わる人たちの教室をこえた友好、連携が促進された。午後の分科会は、台風接近による悪天候で中止となった。



(2) 目標の達成状況・成果

・午前の全体会において、落語劇を上演して日本語能力の向上を図ることができた。午後は、出身地域・国の紹介を日本語で行うことで自らの日本語能力を高めていく分科会を予定していたが、台風接近のため中止となった。

(3) 今後の改善点について

・好天候の場合、全体の参加者が400名を越えるため、会場の確保や日程の調整が難しく延期することはできなかった。延期実施ができるかどうか、次年度は事前に検討しておく。

<取組7>

取組 7

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年7月16日 (日) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	10	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	安田邦夫 辻原正子 坂本真司 ※田中久子 ※1時間	東真澄他13人
2	平成29年7月18日 (火) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	14	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	森勝則 坂本真司	長島久子他21名
3	平成29年7月23日 (日) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	13	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	安田邦夫 辻原正子 坂本真司	東真澄他17名
4	平成29年9月5日 (火) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	13	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	森勝則 坂本真司	長島久子他23名
5	平成29年9月10日 (日) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	12	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	安田邦夫 辻原正子 坂本真司	東真澄他15名
6	平成29年9月12日 (火) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	9	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	森勝則 坂本真司	長島久子他17名
7	平成29年9月17日 (日) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	8	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	安田邦夫 辻原正子 坂本真司	東真澄他13名
8	平成29年9月19日 (火) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	11	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	森勝則 坂本真司	長島久子他17名
9	平成29年9月24日 (日) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	13	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	安田邦夫 辻原正子 坂本真司	東真澄他14名
10	平成29年10月1日 (日) 10:00～12:00	2	高槻市立生涯学習センター	13	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	安田邦夫 辻原正子 坂本真司	東真澄他16名
11	平成29年10月3日 (火) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	12	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	森勝則 坂本真司	長島久子他17名
12	平成29年10月8日 (日) 10:00～12:00	2	高槻市立生涯学習センター	12	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	安田邦夫 辻原正子 坂本真司	東真澄他14名
13	平成29年10月10日 (火) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	11	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	森勝則 坂本真司	長島久子他18名
14	平成29年10月15日 (日) 10:00～12:00	2	高槻市立生涯学習センター	8	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	安田邦夫 辻原正子 坂本真司	中西幸男他13名
15	平成29年10月17日 (火) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	11	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	森勝則 坂本真司	長島久子他18名
16	平成29年11月5日 (日) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	12	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	安田邦夫 辻原正子 坂本真司	中西幸男他16名
17	平成29年11月7日 (火) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	12	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	森勝則 坂本真司	長島久子他18名
18	平成29年11月14日 (火) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	11	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	森勝則 坂本真司	長島久子他17名
19	平成29年11月21日 (火) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	13	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	森勝則 坂本真司	長島久子他18名
20	平成29年11月26日 (日) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	8	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	安田邦夫 辻原正子 坂本真司	中西幸男他14名
21	平成29年12月3日 (日) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	6	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	安田邦夫 辻原正子 坂本真司	中西幸男他10名
22	平成29年12月5日 (火) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	12	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	森勝則 坂本真司	長島久子他21名
23	平成29年12月10日 (日) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	7	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	安田邦夫	東真澄他10名
24	平成29年12月12日 (火) 10:00～12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	17	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	森勝則 坂本真司	長島久子他23名

25	平成29年12月17日 (日) 10:00～ 12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	12	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	ペ	安田邦夫 辻 原正子	東真澄他14名
26	平成29年12月19日 (火) 10:00～ 12:00	2	高槻市立生涯学習センター	16	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	ペ	森勝則 坂本真司	長島久子他20名
27	平成30年1月7日 (日) 10:00～ 12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	9	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	ペ	安田邦夫 辻 原正子	中西幸男他13名
28	平成30年1月9日 (火) 10:00～ 12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	17	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	ペ	森勝則 坂本真司	長島久子他21名
29	平成30年1月16日 (火) 10:00～ 12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	21	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	ペ	森勝則 坂本真司	長島久子他22名
30	平成30年1月21日 (日) 10:00～ 12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	12	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	ペ	安田邦夫 辻 原正子	中西幸男他16名
31	平成30年1月23日 (火) 10:00～ 12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	18	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	ペ	森勝則 坂本真司	長島久子他23名
32	平成30年1月28日 (日) 10:00～ 12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	7	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	ペ	安田邦夫 辻 原正子	島田徳子他11名
33	平成30年2月4日 (日) 10:00～ 12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	7	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 アまたは全体学習	ペ	安田邦夫 辻 原正子 ※野々山文江 ※1時間	島田徳子他11名

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【教室外研修 平成29年10月22日(日)】

よみかきこうりゅうかいに落語劇で参加

・平成29年度よみかきこうりゅうかいに、クスクスから学習者8名、支援者10名が初めて参加し、午前の部でクスクス教室の紹介とパフォーマンス(落語劇:与太郎)を披露した。これは学習者が中心となり作り上げたものである。会場から沢山の好評を頂いた。滑稽な会話のやり取りやおちなど楽しみながら日本語や日本の芸能を学ぶことができた。



○取組事例②

【第33回 平成30年2月4日(日)】

書道体験

外部講師を招聘し日本文化体験の一環として開催した本格的な書道教室である。道具の説明から筆の持ち方、墨のつけ方、半紙の裏表の見分け方など詳細な説明がなされた。講師が事前に用意したお手本「元気」「夢」「大吉」などから書きたい文字を選ぶのだが中には自分の好きな字をその場で先生にお願いする学習者もいた。慣れない筆の運び方に戸惑っていた学習者も講師や支援者のアドバイスでよい作品に仕上がった。2月18日に日頃の日本語学習成果の発表をかね開催した当会の第5回スピーチコンテストでも作品発表として書道体験の感想や自分がその字を選んだ理由、字に込めた思いなどを語ってくれた。日本語学習時には漢字が得意でない学習者も多いが書道を通じて文字への興味関心が深まった。

(2) 目標の達成状況・成果

・学習者に対するアンケートから

- ① 日本語は前より上手になったか「上手になった」56% 「まあまあ上手になった」44%
- ② 前よりも日本での生活ができるようになったか「できるようになった」56% 「少しできるようになった」44%
- ③ プログラムの内容に満足しているか「満足している」89% 「まあまあ満足している」11%

上記のように全員がプラスの回答をしており、すべての学習者が「もっと勉強したいと思う」と回答するなど学習者にとって満足度の高い講座となった。

・また、教室の目的・理念に基づき、日本語教室の他に学習者・支援者が共同で3つの交流グループ(交流グループ、留学生支援グループ、日本語グループ)を運営し、これらを通じてお互いの文化を学び合い、相互理解と国際交流を推進するとともに、外部団体との協働事業にも積極的に参加し多文化共生社会の町づくり、人づくりを実施した。

(3) 今後の改善点について

・学習者にとって満足度の高い講座であり続けられるよう、講座の学習方法により工夫をこらす。

・今後も更に増えると思われる学習者のために、教室開催の場所を安定して確保できるようにする。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・府内の識字・日本語教室相互の連携体制を構築する。
・学習支援者が、学習者の多様なニーズに応えられるスキルを高め、教室の支援力を強化する。
(大阪府では、識字運動の中で作られ、活動が続けてきた識字学級にも外国人学習者を受け入れ、ともに学ぶ活動が行われており、日本語教室とともに識字・日本語教室として、学習活動推進のための取組みを進めている。)

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・府内44教室の訪問やエリアネットワーク会議を開催することで、府内5つのエリアにおける各教室どうし、教室と行政その他の組織との連携が進んだ。また、システムコーディネーター連絡会議や識字・日本語学習シンポジウムなどで、5つのエリア間の情報共有も行い、府全体としての連携と学習支援体制の整備が促進された。
・また、システムコーディネーター連絡会議や識字・日本語シンポジウムなどで5つのエリアの課題等の情報共有や協議をすることにより、府全体としての連携体制や学習支援体制の整備が促進された。
・「日本語初心学習者支援講習会」「社会とつながる日本語教室運営講座」等の取組みを実施することにより、教室支援者等が様々な課題を抱える学習者からの質問に対して話を聞き、専門機関につなぐなどの対応スキルを高めることにつながった。
・教室で学んだ外国につながる元学習者が、経験や母語を活かした学習支援者として活動できる教室運営について、学ぶことができた。
・事業を実施する中で得た事例等を紹介するための事例集を作成した。事例集では、システムコーディネーターがおこなった教室訪問やエリアネットワーク会議の開催で得た課題解決に向けた取組みを課題別に紹介するなど、識字・日本語教室に関わっている者の参考になる情報を発信できた。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

・「エリアネットワーク会議」「識字・日本語シンポジウム」「よみかきこうりゅうかい」などの取組みを通じて、府内のそれぞれの教室やエリアでの課題等を共有し、一緒に考える機会を持てたことにより、教室支援者、行政担当者、関係団体等の連携が促進された。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・各市町村教育委員会および国際交流所管部課に対して、行事の実施を連絡するとともに、行事のチラシ配布を依頼した。
・大阪府ウェブサイト、実施講習について広報するとともに、マスメディアに対して情報提供した。
・各市町村国際交流協会、あるいは講習受講者に対してメールで案内した。
・取組2 日本語初級学習者支援講習会の受講者にその後の講習、識字・日本語講習(取組3、取組4)について案内をおこない、年間を通じて12回の講習を受講され、識字・日本語学習支援について理解を深めていただくよう働きかけた。

(5) 改善点、今後の課題について

・府内識字・日本語教室の相互のつながりをつくる基盤ができた。次年度はさらに連携が進み、自律的にネットワーク化が進むよう、システムコーディネーター・教室支援者、行政担当者等が識字・日本語学習の課題の共有や意見交換の方法を工夫する。
・取組2 日本語初心学習者支援講習会、取組3 社会とつながる日本語教室運営講座では、会場の収容定員を超える参加申込者があったため、今後は、より大きな会場を用意する。
・上記講習会に申し込んだものの当日の不参加者が各回2割程度あったため、不参加者に席が割り当てられる形となった。取組2は全6回講習、取組3は全3回講習のため、すべての出席は難しい場合もあるだろうが、事前に欠席がわかれば、他の参加希望者へ調整が可能であるため、定員を超えた場合等の調整方法を再考する。
・欠席理由として受講者のニーズと各回の内容が合致していなかった可能性もある。参加申し込み時により具体的な内容を提示することと、講習会開始時に、全体のコースデザインと取組の目標をしっかりと伝えることで、不参加者数を減らすことに努める。

(6) その他参考資料

別添にて、チラシ、運営委員会報告書、事例集を提出。